

R6年度 市川中学校校内研究の概要

1 研究主題

豊かな人生を切り拓くたくましい生徒の育成
～教員相互の学び合いと小中連携教育の研究を通して～

2 主題設定の理由

市川中学校では、これまで文部科学省からの「学力向上拠点形成事業」、「英語教育強化地域拠点事業」の指定を受け、その期間に小集団の導入、テスト前の取組表の活用などの土台が作られてきた。その後、授業づくりと集団づくりの実践を通して生き生きと意欲的に学び合う生徒の育成を目指し、学ぶ意欲や学力向上の基盤として「集団づくり」が重要であることが確認された。これまでの成果として、生徒は落ち着いた学校生活を送り、学習に向かう雰囲気定着していると感じられる。また、令和4・5年度山梨県教育委員会「教科担任制推進事業」の研究推進指定校として、市川小学校、市川東小学校との3校で「教科担任制」について研究を進め、3校合同校内研究会等を通して、教師の資質・能力の向上をねらい研究を行った。この研究では、教科担任制の導入を実証し、具体的な効果や課題を示すとともに、課題解決の過程等を、県内の学校に随時発信することができた。

今年度は、教員同士が毎日の学校生活の中でのお互いの実践を公開し合い学び合うことを通して、指導力の向上・充実を図り、教師の資質・能力の向上を実現したい。また、3校合同校内研究会等を通して、昨年度までの研究で明らかになった小中の連携による中1ギャップ（小中ギャップ）の解消の方策の推進をはじめ、生徒が安心して学ぶことのできる学習環境を整えることで、生徒一人一人に豊かな学びを提供したいと考え、本主題を設定した。

3 研究目標

豊かな人生を切り拓くたくましい生徒の育成を目指し、教員相互の学び合いを主軸とした研究を通して、授業の質の向上を図るとともに、小中連携を行うことで中1ギャップ（小中ギャップ）の解消をはじめとした小中の円滑な接続を図る。

4 研究仮説

教員相互の学び合いと小中連携教育を推進することで、持続可能な社会の創り手となりうるたくましい生徒が育つであろう。

5 研究内容および研究方法

(1) 授業の質の向上

- ・指導主事を招聘した研究会の実施
- ・授業交流を通しての教員相互の学び合い
- ・ICT活用方法の研修・実践
- ・一人一実践（授業交流）による授業力の向上

(2) 多面的な児童・生徒理解

- ・中1ギャップ（小中ギャップ）の実態把握及びギャップの解消に向けての手立ての検討
- ・多面的な児童・生徒理解のための情報共有体制についての検討
- ・webQUの実施と分析
- ・特別支援教育についての研修会

(3) 主体的に学ぶ態度の育成

- ・小中合同の校内研究会の実施
- ・「教科担任制」研究の成果と課題をもとにした小中連携

6 研究組織

全体研究会

研究推進委員（校長、教頭、教務主任、研究主任、学年研究担当）

・研究授業の授業案検討会については、各教科・領域ごとに主任を中心に実施する。